

頑張っている行政区紹介

絆を深めて明るい街づくりを!!

片岡四区行政区

地域の活性化のため基本方針「地域の皆さんとコミュニティ活動を通じ出会いと絆を深め明るい街づくり」を掲げて、「変える勇気！創り出す努力！」をモットーに現在奮闘中の片岡四区の高橋区長、役員の皆さんにお話を聞きました。

●片岡四区の誕生は？

昭和五十三年三月から、桜ヶ丘ニュータウンとして販売が開始され、片岡三区行政区に加わりました。その後、徐々に人数が増え、平成十三年に片岡四区行政区が誕生しました。

東日本大震災を経験し、普段の声掛けやあいさつが地域作りに重要であると感じてきました。平成二十六年に公民館が完成し、活動の拠点となりました。

●どんな事業が行われていますか？

公園内の整備や側溝の修理な



ど地域の環境整備をはじめ、さらさらサロン、そば打ち体験、健康マージャン、女性による茶飲み会などを行っています。行事の参加者は毎月延べ約百四十人になります。

●地域の情報発信中!

地域で何が起きているか、何が行われているのか、新しく入った人・出た人、お悔やみや紹介など、個人情報保護に注意しながら地域のことを知ってもらうため、自治会長作成の「自治会だより」を地域のみなさんに届

けています。みなさんから好評をいただいているので、今年から月二回の発行となりました。●これからの展望は？



市からもらっているコミュニティ活動支援の助成金は、今年が三年目で最後の年となります。事業を軌道に乗せ、結果を出さなければならぬのですが、すぐに出るものではないので、継続と努力、固定観念を変えていく勇気も必要です。また、矢板市の見本となる行政区づくりを目指し、取り組んでまいります。

特に、毎週開催している英語の勉強会には中学生が多く参加しており、「英語の成績が上がった」「目標の高校に入学できた」などよるこびの声が寄せられています。

●誰もが気楽に参加できる自治会活動を実現していきたいです。地元で集まって楽しめるように、高齢者から子どもまで楽しんでいただけるような企画を実施していきます。さらに収支決算などは、透明性のある形にした運営をしていきたいと考えています。

(T・O)

ハッピーな地域を目指して

ハッピーハイランド矢板行政区

東日本大震災で大きな被害を受けるなど、多くの苦難を乗り越え、平成二十八年度に成田行政区から分離し、公民館まで新築したハッピーハイランド矢板行政区の掛下区長と地域の皆さんにお話を聞きました。

●ハッピーハイランド矢板の誕生は？

昭和五十二年から分譲が開始され、翌年には十四世帯に、昨年十月現在には、二百四世帯、四百六十五人になりました。

●大震災の時は大変だったと思いますが

全壊十五軒、大規模半壊十軒など、大きな被害がありました。水道が二カ月間停止し、下水道が復旧できず、仮設トイレの設置も三カ月間に及びました。

集中浄化槽・下水管が私営のため、復旧には国・市からは補助金が出ず、住民の積立金を三



千万円を取り崩し、対応しなければなりませんでしたが、●分離した理由は？

団地の開発から四十年以上が過ち、重要課題が山積していました。緊急の問題として、震災で大破した自治会館の再建や集中浄化槽の老朽化対応などがあり、その解決には、成田行政区に依頼するだけでなく、「地域課題は自らが立ち上がり解決する必要がある」と強く感じていたことから、成田行政区とも協議しながら住民投票を実施し、賛同を得た上で分離に踏み切りました。



よる公民館新設助成金の獲得も分離要件の大きな要素となっており、●活動の特色は？

公民館を自由に利用できるよう、週三日を開放日にし、当番制で対応しています。さらに、ラージボール卓球の日、囲碁将棋麻雀の日なども設けています。

毎月、区長が「ハッピーだより」を、高齢者ボランティアグループが「ハッピーいきいきクラブニュース」を発行し、地域の情報共有にも力を入れています。

●さらにさらさらサロンの活動は？

昨年は、おしゃべりカフェやグラウンドゴルフを楽しむ会など計五十回、延べ千人以上がさらさらサロンの活動に参加しました。今後は、外に出たがらない人や身体の不自由な人にも参加してもらえよう取り組んでいます。

(T・H)